



蒼雲

『地域に支えられ、そして地域を支える』

校長 本間 達也

今年度も残りわずかとなりました。思い返せば、令和5年5月8日に新型コロナウィルス感染症が第5類に移行し、学校行事や部活動に係る大会の多くが徐々にコロナ禍以前のように開催できるようになりました。学校内でも生徒の歓声が響くようになり、学校が本来持っていた活気を取り戻しながらのスタートとなりました。先日卒業式を迎えた3年生の皆さんにとっては、高校入学以来初めて“3密”を必要以上に気にしなくてもよい高校生活になったことと思います。高校総体・総文祭等の大会では、これまで抑えられていた澆測とした若者のエネルギーを表出してくれました。県総体で優勝し全国総体ベスト16の好成績を取った男子ソフトボール部、創部史上初の県総体ベスト4の躍進を遂げたサッカー部の皆さん、多くの部活動で生き生きとした生徒の皆さんの活躍ぶりを、みる“ことができました。コロナ禍ではその活躍ぶりを、みる“ことさえできない時期がありましたから。久しぶりに、“制限のない”応援に駆けつけていただいた保護者・地域の皆様の中には、生徒が小・中学生の頃に地元のスポーツ少年団で指導をしていたという方々もいらっしゃいました。試合に出場している生徒が幼かった頃を懐かしそうに思い返しながら声援を送っていたいました。ある方は「小学生の頃に一生懸命指導した甲斐がありました。成長した姿を見せてくれる、その機会があることは嬉しいですね。指導者冥利に尽きます。」と言っていらっしゃいました。保・幼・小・中・高校と、

地域全体で生徒の成長を支援していただけていることを実感しました。また、今年度同好会から昇格したダンス部は、市内外各地で開催された数多くのお祭りやイベントにお呼びいただき、若さ溢れるパフォーマンスを披露し地域の皆様に喜んでいただきました。各会場では、小さいお子さんが見様見真似で楽しそうにダンスを踊っている光景を見ることも多くありました。

文化部では、JRC部が地域をフィールドとしてオリジナルティあふれる活動を精力的に展開しています。「永井隆博士知っとくワークシート」を作成し、永井隆博士の業績を周知する活動を行ったり、峯寺境内の梅を収穫し梅ジャムに加工して販売したり、校内外での献血活動を勧めたり、買い物・スマホの使い方・災害時の避難といった地域の高齢者の方々の困りごとを解決するための取組をしたりと地域の皆様との関係を深めながら年々活動の幅を広げていきます。そして、今では地域の皆様から「企画段階から一緒に活動しよう」との声掛けまでしていただくようになりました。

演劇部は、全国総合文化祭「2023かごしま総文」で第2位となる「優秀賞」「文化庁長官賞」の成績をおさめ、8月26日(土)、27日(日)には国立劇場で開催された「第34回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」にて大トリの大役を務めました。上演作品の「ローカル線に乗って」は、JR木次線をテーマにしたものです。鹿兒島での公演前には、雲南市の主催により雲南市木次経済文化会館チェリヴァホールに

て壮行公演を行わせていただきました。収容人数500人の会場ホールはほぼ満席となるほど盛況でした。地域に密着した上演内容で、お越しいただいた皆様からは「思わず涙が出ました」「高校生の皆さんのレベルの高さに驚きました」といった声をいただきました。会場では、JR木次線の利用促進運動とタイアップする形で、今年ラストランとなった奥出雲おろち号へのメッセージボードやJR木次線に関する展示も数多くありました。また、上演後はJR木次線に関する意見交換会が開催され、演劇部の生徒も高校生の視点から活発に発言をしていました。演劇部は、前年に「永井隆物語」を上演しており、地域に内在する課題等を高校生の視点で見つめなおし、地域資源を再評価していこうという動きにつなげようとしています。東京公演後には、県外の卒業生の方から「帰省するたびに老いて寂れていく故郷に心が痛んでいましたが、若い後輩たちという財産があることに気が付きました。ただただ母校を懐かしむだけでなく、そんな後輩たちを出来るだけ支援していきたいと思っています。」という嬉しいメールもいただきました。地元地域にいらつしやる皆様のみならず、様々な理由で地元地域を離れていらつしやる皆様に対しても活力をお与えすることができていることを実感しました。

ありがたいことに、最近複数の卒業生の皆様から「母校や故郷のために自分の経験を活かしたい」といったお言葉をいただくようになりました。地域に支えられてきた本校が地域活性化のための仲介を担う存在になれるとしたら、この上ない喜びです。地域に支えられ、そして地域を支える存在となれるよう、教育活動にあたっていきなしたいと思います。今後とも、ご理解とご支援のほどよろしく願います。

【文芸部】

野中風花

文芸部は島根県高文連文芸コンクールに作品を出品し、5名の部員が小説部門優秀作1位、2位、優良作、俳句部門優秀作3位、優良作、詩部門佳作をそれぞれ受賞しました。また、私は来年度の8月に岐阜県で行われる全国高等学校総合文化祭に散文部門の島根県代表として参加させていただくこととなりました。このような機会をいただけたことに深く感謝しております。各県の代表者との交流会や文学研修を通して知識を深め、今後の創作活動に向けて多くのことを学びたいと思っています。



【JRC部】

奥井真由

今年度は特に「笑顔で繋がる世代間交流～Original Style～」をテーマに、高齢者さんに直接関わる企画（スマホ教室・世代間交流ミニゲーム大会・ストレッチ&おしゃべり会）等と、「何をどんなふう困っておられるのか」を実態把握し、地域みんなで考えるための啓発広報や連携を、新たに始めました。

私達1・2年生としては初めて一から考え、始めた活動で、苦戦しながらもイベントの企画・運営・広報・関連機関との報告・連絡・相談など、全て自分たちで“気づき・考え・実行”できました。今後は、この活動から見えてきた課題をいろいろな視点で解決の輪を繋げていく予定です。引き続き応援よろしくお願いします。

- ◆全国ボランティアスピリット
「コミュニティ賞」「ボランティアスピリット賞」
- ◆全国ボランティアアワード「ポスター発表の部 入賞」
- ◆全国総合文化祭ボランティア部門
島根県代表（主催者の都合により不開催）
- ◆全国リーダーシップスタディセンター
島根県代表 秦くるみ
- ◆島根県高文連青少年赤十字 研究発表
「最優秀賞」
来年度の全国総合文化祭代表権獲得



／ Pick Up! ／

部活動報告

【演劇部】

陶山桔平

私は7、8月に岐阜県羽鳥市で行われる全国高等学校総合文化祭演劇部門に生徒講評委員中国5県代表として出場します。大会では全国各ブロックから12名代表が集まり、観客の立場で上演を真摯に受け止め、講評を通じて作品に対する理解と学びを深め、最後に成果を講評文にまとめて発表します。昨年12月に鳥取県米子市で開催された中国大会に参加した時には、短い時間の中で自分の考えを整理してわかりやすく伝えると同時に他の講評委員の話を受け止めることがとても難しく感じました。ですが先生方からアドバイスをいただき、全力で取り組んだ結果、中国ブロック代表に推薦していただくことができました。

全国高等学校総合文化祭でも自分の意見をしっかりと伝えられる講評ができるよう、これからも努力していきたいです。



【パソコン同好会】

香月悠希

パソコン同好会は11月に行われた第5回 Minecraftカップに出場しました。私たちは夏休みの部活動から11月の本番までの3ヶ月で作品を作り上げました。今大会のテーマは「再生可能エネルギー」で、私たちはあまり知られていない波力発電をマイクラフトで作りました。中国地区予選を突破し、本戦まで勝ち進みましたが惜しくも上位大会へ進むことはできませんでした。しかし特別賞をもらうことができました。来年もMinecraftカップに参加する予定です。新入部員を勧誘し、後輩に伝統として託したいと思います。



【剣道部】

足田 絆斗

私たち剣道部は顧問の先生方ならびに地域指導の先生のご指導のもと、剣道の理念である『剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である』を体現出来るよう日々稽古に励んでいます。12月に県新人戦があり、私は団体戦と個人戦に出場しました。個人戦では初戦の相手が強豪校の選手であり、30分近くの長い試合となりましたが、最後まで自分のペースを崩さずに勝つことができました。2回戦以降の試合も好機を一本にすることができ、ベスト8に進出して中国新人大会の出場権を獲得しました。

地域の剣道家の先生方にも度々道場に足を運んでいただきご指導をいただいています。他県の選手の試合運びを参考にしながらすべての経験を中国新人大会で生かせるように頑張ります。



【陸上競技部】

藤田 康佑

私は、競歩という種目で中国大会に出場しました。陸上部は部員が少なく、練習場所も限られていますが、みんなで練習内容を考えて大会で自己ベストが出せるように日々頑張っています。大会では練習の成果を発揮することができました。しかし、目標としていた入賞にはあと一歩及ばず、悔しい思いをしました。地区大会でいい経験ができたので、次の大会につなげ、部員と一緒に頑張っていきたいと思います。応援ありがとうございました。



【女子ソフトボール部】

内藤 紗和

女子ソフトボール部は10月に江津市で行われた新人選手権大会に出場しました。練習してきたことを出し切るため、チーム全員が強い気持ちを持って試合に挑みました。合同A、合同B チームと対戦し危うい場面もありましたがなんとか勝つことができ、中国大会・全国選抜大会の出場権を得ることができました。大会では、人数が足りず助っ人に入ってくださいました。たくさんの方々の支えや応援があったからこそ、ここまで来ることができました。応援ありがとうございました。今後の大会ではこれまで以上に成長できるよう日々練習に励んでいきます。



【男子ソフトボール部】

石飛 陽帆

私たちソフトボール部は昨年インターハイベスト16を達成しました。

8月中旬から新チームとなり、インターハイベスト8を目標として活動しています。しかし新チームが始動してから練習試合や公式戦でも勝利をなかなか掴むことが出来ませんでした。練習や試合を重ねていく中でもどのようなチームを目指すのか確認しながら、意見を出し合い練習を重ねました。そして11月の中国新人大会で公式戦初勝利を掴むことが出来ました。しかしまだまだ力不足を感じました。

目標を達成するためにこれからも練習ではコミュニケーションを大切に、日々の生活でも応援してもらえようチームとなるよう行動していきたいと思っています。



生徒会長の抱負

後期生徒会長 桑原大河

私は今年度後期生徒会長となり、初めて生徒をまとめる立場となりました。正直に言うと、会長になって何をしようかと行く先も定まらないままスタートしましたが、生徒会誌の作成や総会の運営などの活動を中心に、ゴミ拾いや募金活動などを行い、あつという間に半年間が経過しました。今年は役員の数も多かったです。役員全員が積極的に行動的なので、役員のおかげで多くのイベントを実施することができています。一人で抱え込むことには限界があります。一人ですが、役員や先生方と共に、活動の幅を広げ、充実した生徒会生活になり、本当に感謝しています。

そして三刀屋高校は今年で開校百周年を迎えることとなります。そんな年に生徒会長を務めることは、とても大きな経験であり、思い出となるでしょう。私はこれから学校や地域が躍進していくために、より一層生徒会活動に力を入れ、自分を中心となって良い学校づくりを進めていこうと思います。そのためには生徒の皆さん、先生方、そして地域の方のお力が必要です！みなさん、「チーム三高」として協力して三刀屋高校を盛り上げていきましょう！



県ベスト4

[サッカー部] 青木秋心

2月2日（金）から開催された令和5年度島根県高等学校サッカー新人大会で、サッカー部は令和5年度島根県高等学校総合体育大会に続き、今年度2回目の県ベスト4という結果を残しました。応援ありがとうございました。

1回戦	三刀屋 6-0	浜田商業
2回戦	三刀屋 2-0	松江農林
準々決勝	三刀屋 4-1	石見智翠館
準決勝	三刀屋 0-1	益田東
3位決定戦	三刀屋 0-7	立正大松南



「Hello ボランティア！」に参加しました

12月23日（土）雲南市役所で開催された「Hello ボランティア！」に1年生 藤本訓弥さんが参加しました。

このイベントは、ボランティアやコミュニケーションについて楽しく学ぶことを目的とし、藤本さんの他、市内の中学生4名が参加しました。

主催者である雲南市社会福祉協議会の方によるボランティアについてのお話を聞き、「先輩トーク」として、藤本さんが自身のボランティア体験を語りました。

藤本さんは「これからも地域の役に立てるよう、ボランティア活動に参加していきたい。」と話しました。

